

新居浜市政策懇談会

市長公約（7つの夢の実現）
を推進するための提言

⑤市民の力が育まれ、継承される社会の実現

平成29年11月27日

特色ある学校づくりWG提言書（案）

1. 特色ある学校づくり

17人の委員で構成する特色ある学校づくりWGは、石川勝行市長の公約である「市民の力が育まれ、承継される社会の実現」のための方策である「特色ある学校づくり」について、3回にわたり審議を行いました。その結果、「特色ある学校づくり」につきましても、次のとおり提言をいたします。

【現状・方向性】

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は、人口減少、地域社会のつながりの希薄化、貧困問題の深刻化、グローバル化の進展、教職員の多忙化などが進む中で、複雑化・困難化している。こうした課題解決のために、これからの学校の在り方として「地域とともにある学校」を目指し、コミュニティ・スクールの導入を推進し、学校運営への地域住民等の参画を促進するとともに、学校業務の改善を図り、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを進めていく。地域における学校との協働体制の在り方では、地域における学校との協働体制の今後の方向性として、「支援」から「連携・協働」、「個別の活動」から「総合化・ネットワーク化」へ向けて、各校区に地域学校協働本部を設置するための支援をしていく。

不登校等の対策については、あすなろ教室や国の委託事業による取り組みを進めてきたが、不登校児童生徒は、この数年間は特に増加しており、平成28年度では153人で直近10年で最多数となっている。今後は有効な対策が必須と考えられるが、スクールソーシャルワーカーを「チーム学校」の一員として位置づけ、専門的な知識による個々の状況に応じたケアの実施や関係機関と連携した支援などで難しい家庭の問題を解決しながら、教員とは異なるアプローチによる不登校問題等にかかる事業推進が必要である。

また、平成27年度に学校教育課に学校図書館支援センターを設置して、小中学校における読書活動を推進し、学校図書館の効果的な活用及び運営を図ってきた。今後は、特色ある学校づくりの中で、「読書に親しむまちづくり」を目標として、学校や家族で読書をすることでコミュニケー

ションを深める読書運動を展開し、本に親しむきっかけづくりと、読書に対する興味や関心を高める環境づくりに努め、ひいては学力向上に繋げていく。

また、このような特色ある学校づくりを進めていくうえでは、多忙を極める現在の学校の業務の改善を進めることが不可欠であり、統合型校務支援システムの導入やICTを活用した授業改善など、ICTの積極的な導入により教職員の多忙化を解消して子どもと向き合う時間を確保することも重要である。

なお、今回の審議の中で提案のあった不登校・学力向上・小規模校対策などの問題を解決するための小中一貫教育や豊かな体験活動の拡充については、引き続き調査研究を進めていく。

【特に重点的に進めるべき取組】

(1) コミュニティ・スクールへの転換と充実

① 学校運営協議会を全小中学校に設置

「開かれた学校」から更に一步踏み出し、地域でどのような子どもたちを育てるか、何を実現していくかというビジョンを地域住民と共有し、「地域とともにある学校」へ転換するために、学校運営協議会を全小中学校に設置して取り組みを推進することを望みます。

② 学校運営協議会を有効に機能させる協働活動の推進

「地域とともにある学校」への転換が求められている中、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組み、子どもたちの未来を見守り輝かせることのできる仕組みとして、学校運営協議会を有効に機能させる協働活動の推進を望みます。

③ 学校支援地域本部を発展させて地域学校協働本部を全校区に設置

これまでの地域による学校の「支援」から、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」への発展を目指し地域学校協働本部を全校区に設置することを望みます。

④ 地域学校協働活動推進員の育成と配置

地域と学校をつなぐコーディネーターの役割を担う地域学校協働活動推進員を育成・配置することにより、地域住民、保護者、PTA、社会教育施設や団体、スポーツ団体、企業等と学校との連絡調整を行い、「社会総がかりでの教育」が実現することを望みます。

(2) スクールソーシャルワーカーの活用

① スクールソーシャルワーカーによる児童生徒や保護者との相談業務

社会福祉の専門的知識を持つ社会福祉士等によるスクールソーシャルワーカーを「チーム学校」の一員として明確に位置づけ、児童・生徒や保護者との関係性を十分に築けるような体制を整備し、学校での相談業務にあたり、不登校・いじめや暴力行為、虐待や貧困などの問題解決を支援することを望みます。

② アウトリーチ型の学習相談・学習支援

スクールソーシャルワーカーによる支援については、家庭訪問等のアウトリーチ型の学習相談・学習支援により、子どもが抱える状況の早期改善が図られることを望みます。

③ スクールソーシャルワーカーによる関係機関との連携の構築

スクールソーシャルワーカーによる支援については、学校やPTA、保護者、福祉部門・医療機関等の関係機関との連携を構築し、「チーム学校」として問題解決にあたることを望みます。

④ スクールソーシャルワーカーによる学校や教員への支援業務

社会福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーの活用により、教員とは違った福祉的アプローチによる問題解決を図るとともに、教員の多忙化の解消による負担軽減と、教員が子どもと向き合う時間の確保といった業務改善に繋がることを望みます。

(3) 読書に親しむまちづくりを目指して

① コミュニケーションを育てる読書運動

学校（朝読書等）や家族で本を読み、感想を話し合う活動を推進することで、友達や家族の絆とコミュニケーションを深め、本に親しむきっかけづくりと、読書に対する興味や関心を高める環境づくりを図ることを望みます。

② 本に親しむきっかけづくり

市内の小中学生からお勧めの本とその紹介文を募集し、新居浜市推薦図書100選を作り、読書推進を図ることにより、本に親しむきっかけづくりを行うことを望みます。

③読書に対する興味や関心を高める環境づくり

例えば、別子銅山記念図書館の本を各学校の図書館で借りることが出来るようなシステムを組み込むなど学校活動のICT化を図ることや、蔵書の充実や人的支援による魅力的な学校図書館づくりを行うことにより、子どもたちや保護者の読書に対する興味や関心を高める環境づくりを推進することを望みます。